

欧米各国から川崎病に類似した症状を示す小児患者の増加、不全型川崎病と診断され集中治療室での管理を必要とした重症患者の一部にCOVID-19感染患者が含まれているとの報道がなされているのを鑑み、日本川崎病学会運営委員56名を対象に以下の質問をメールで行った。

回答期間 2020.5.1～5.2 (2日間)

2020年2月～4月において、

Q1 例年と比較して川崎病の発生状況に変化はあるか？

Q2 川崎病例の重症度、重症例の発生状況に変化はあるか？

Q3 小児COVID-19患者を診療した場合、

1) COVID-19患者数

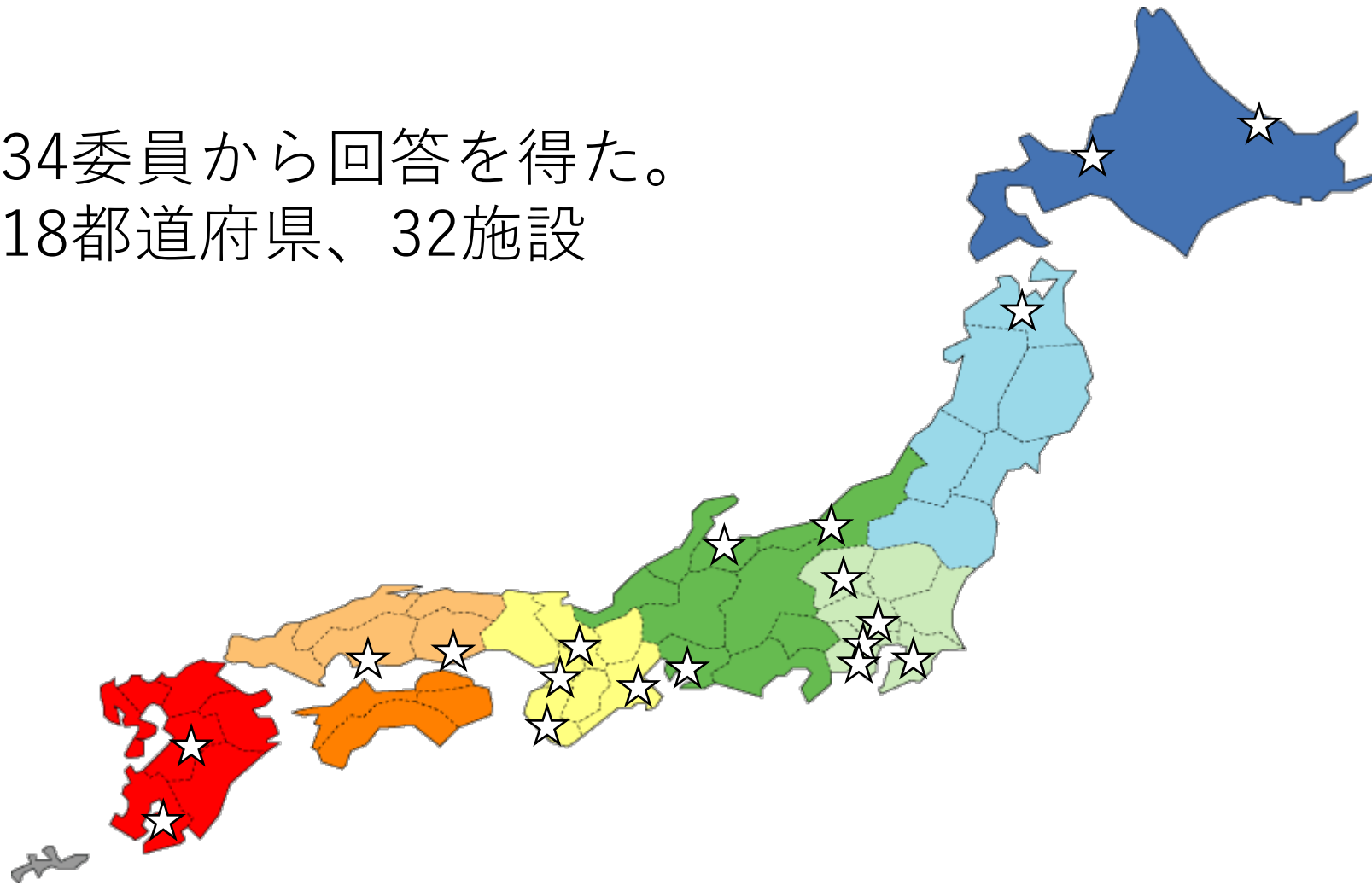
2) COVID-19患者の中で報道のような（重症）川崎病を疑う症例が存在したか？

3) （重症）川崎病例の中でCOVID-19を疑う症状を示す患者が存在したか？

Q4 その他、川崎病診療において気が付いた点

背景：3月から3-5歳、小学生、中学生、高校生は休校措置となり、自宅隔離状態にある。

34委員から回答を得た。
18都道府県、32施設



Q1. 2020年2月～4月、例年と比較して川崎病の発生状況に変化はあるか？

減少	19
変化なし	13
増加	0
回答なし	2
Total	33

2020.2月～4月の患者数を記載戴いた10施設：
計 132例

2019.2月～4月の患者数を併記載戴いた6施設：
2020年 計 87例
2019年 計 134例

Q2. 2020年2月～4月、川崎病例の重症度、重症例の発生状況に変化はあるか？

重症例の減少	2
変化なし	26
IVIG不応例の増加	5
高小林スコア	1
低月齡症例の増加	1
動脈瘤形成	2
ICU管理	0

(複数回答)

Q3 小児COVID-19患者

1) COVID-19患者数(疑い例を含む)

COVID-19診療

なし	23
あり	11
患者数	27人
軽症・無症状	27人

2) COVID-19患者の中で報道のような（重症）川崎病を疑う症例が存在したか？

なし 34

3) （重症）川崎病例の中でCOVID-19を疑う症状を示す患者が存在したか。

なし 33（川崎病症状のある小児患者数名にPCR施行しnegative）

あり？ 1（急性期に肺野に浸潤影をみ、COVID-19 PCR施行しnegative）

背景：3月から3-5歳、小学生、中学生、高校生は休校措置となり、ほぼ自宅隔離状態にある。

その他

- 小児科外来、入院共に患者が減少している。（複数回答あり）
- 感染症患者が減少し、川崎病患者も減少している。（複数回答あり）
- ある会議で、東京都で最多の小児COVID-19患者を診療しているJ中央病院からの報告でも全例対症療法のみ、軽症とのことで川崎病類似の血管炎の話は出なかった。
- 愛知県においてCOVID-19の人工呼吸管理を要する重症小児例は、基本的にA医療総合センターで診療をする取り決めがあるが、現時点で重症例の報告は聞いていない。
- 福岡県内のCOVID-19患者でKD様の症状の発生もないようである（1例発疹という記載あり）。
- 今のところ、発熱によって適切な診療が受けられず診断が遅れた症例はいない。
- 今週から川崎病入院例の血清保存とCOVID-19 PCRを全例行うようにした。

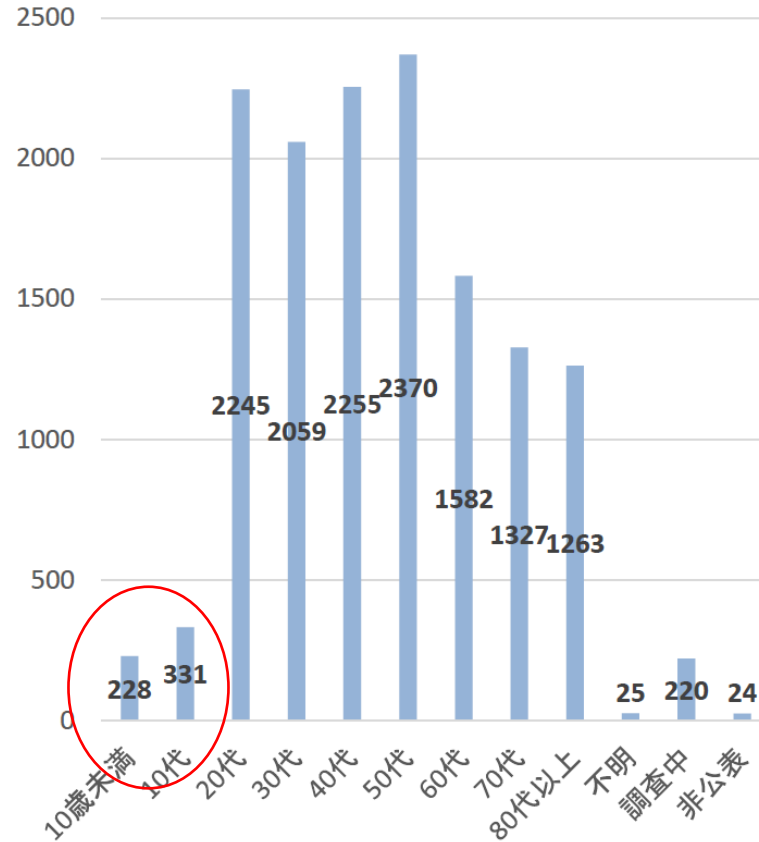
新型コロナウイルス感染症の国内発生動向

令和2年4月29日18時時点

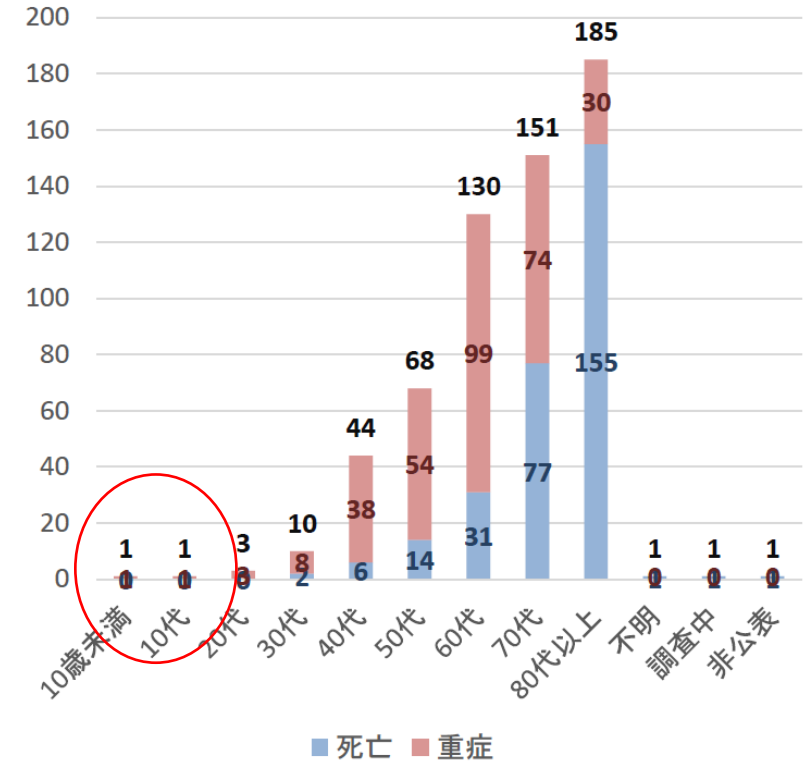
10歳未満の
COVID-19患者 228
Severe case 1
Death case 0

Total 13,929 cases
<10yo 228 (1.6%)
10-19yo 331 (2.4%)

年齢階級別陽性者数



年齢階級別死亡数・重症者数



死亡率(%)

全体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
2.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.6	2.0	5.8	12.3

Incidence of KD in Japan

359.1patients/ 100,000 aged 0-4 years

川崎病

- 例年と比較して、患者数は多くの施設で変化なし、あるいは減少していると感じており、増加していると回答した委員はいなかった。
- 大多数は例年と比較して重症度に変化はないと回答した。他、**IVIG**不応例増加、瘤形成症例の報告が数例あった。
- 肺浸潤影を伴う川崎病症例が1例あったが**PCR**は陰性であった。

小児COVID-19

- 多くの医療施設では患者診療の実績がない。
- 10委員から疑い例を含め23例の報告があったが、すべて軽症であった。
- 川崎病類似の症状を呈した症例の報告はなかった。

本調査は、日常川崎病診療を行う中核病院に勤務する日本川崎病学会運営委員から診療時の印象を聴取したものである。施設の中には重症例を取り扱う拠点病院が含まれる。

COVID-19が問題となった2020年2月～4月において川崎病症例の増加は確認されず、**ICU**管理になるような重症川崎病、川崎病類似症例の報告もなかった。

一方、小児**COVID-19**感染症は少数例確認されたが、全例軽症であった。これは厚労省報告（10歳未満の**COVID-19**感染者228名中、重症例は1例のみ）と一致する。

少なくとも現在、欧米で報告されているような状況は確認されなかった。川崎病と**COVID-19**との関連についてはその動向を冷静に注視し、必要に応じ全国調査を考慮したい。